

病気の時 どうしていますか？

～ 解熱鎮痛剤編 ～

海外の生活は慣れないことも多く、環境も異なるため、日本にいる時以上に体調を崩しやすくなります。日本であれば、病気になってもすぐに近所の薬局で薬を買ったり、近くの病院で処方してもらったりできますが、言語も文化も全く違う国ではちゅうちょしてしまいますよね。特にベルギーの薬局は対面販売が一般的なので、医師の処方箋がない限り敬遠しがち。そのため、薬を日本から持ってきている人も多いはず。

今月から数回にわたってベルギーの薬を紹介します。今回紹介する薬の主成分は、日本でもよく使われているものになります。

<子ども向け>

パッケージに「Enfants / Kinderen」、「bébés / Baby's」、「Jeune Enfants / Kleuters」などの記載があり、子ども向けと分かるようになっていきます。

① PERDOLAN



シロップタイプや座薬タイプがあり、体重により用法・用量が異なります。

② NUROFEN



①と同様、シロップタイプと座薬タイプが存在し、体重により用法・用量が異なります。

パラセタモール(別名：アセトアミノフェン)が主成分。日本の病院で処方されるカロナールとほぼ同じで、日本では解熱目的で使われることが多いです。副作用が起こる頻度が低いため、比較的安心して使用することが出来ます。シロップ

イブプロフェンが主成分。日本の市販薬である「イブ」にも同様の成分が含まれており、解熱と鎮痛両方の用途で使われています。鎮痛作用はパラセタモールより、イブプロフェンの方が強く、副作用の頻度はパラセタモールより多いとい

<大人向け>

妊娠・授乳中の方は、医師と相談の上で服用してください。



③ DAFALGAN (写真左)

①と同様パラセタモールが主成分。DAFALGANには1gタイプ(体重50kg以上)のものもありますが、日本人には500mgタイプをお勧めします。写真商品の用量は、1錠/回、1日3回まで。

④ NUROFEN 200 (写真右)

②の大人向け。NUROFENには250mgタイプのものもありますが、日本人には200mgタイプをお勧めします。写真商品の用量は、1錠/回、1日3回まで。

※掲載情報は一般的に市販されている薬の紹介になります。情報には細心の注意を払っていますが、あくまで参考情報です。薬名もパッケージなどにより表記が異なる場合があります。薬の服用は自己責任となりますので、事前に薬剤師や医師に相談することをお勧めします。

※日本と同様、症状がある場合は市販薬だけに頼らず、医療機関で受診しましょう。

♪プチ外国語講座♪

頭痛・発熱の外国語での表現方法をお伝えします。薬を買う際に使ってみてくださいね。

<英語>

- ・ headache (ヘッド・エイク)
- ・ fever (フィーヴァー)

<フランス語>

- ・ mal de tête (マル・ドゥ・テット)
- ・ fièvre (フィエーヴル)

<オランダ語>

- ・ hoofdpijn (ホーフトゥペイン)
- ・ koorts (コールツ)

薬情報提供元：

Pharmacie du Souverain
Boulevard du Souverain 264
1160 Auderghem
月曜～土曜
8h30～13h00、14h～18h30
日曜・祝日休み

